

多文化共生事業事例集

年度

R4

団体名

公益財団法人しまね国際センター

助成金名：多文化共生のまちづくり促進事業

事業費総額 763 千円

事業名

外国にルーツをもつ子どもの高校進学支援事業

概要

外国にルーツをもつ子どもたちの学習支援教室では、ボランティアに教えてもらいながら勉強した。交流会では、先輩の体験談を聞いて勉強や進路について話した。子どもサポーター養成講座は子どもの状況や指導方法を学んだ。検討会は事業の検討と情報交換をした。

事業のポイント

◇島根県の日本語指導が必要な児童生徒数は平成 25 年度の 66 人から 3 倍に増加している。島根県が令和元年に実施した外国人住民アンケート調査によると、一定数の保護者は子どもの学習や進学について心配している。

このような状況を踏まえ、外国にルーツをもつ子どもの中学生及び学齢超過で来日した子どもを対象に、学習支援等を実施し、外国にルーツをもつ子どものキャリア形成に寄与する。

事業の背景・目的

◇日本語指導が必要な児童生徒は、県内で最も外国人住民数が多い出雲市に集中しており、出雲市によると令和 4 年度出雲市で日本語指導を受けている中学生は 48 人である。

夜間中学校や子どもたちを対象とした日本語学校はなく、外国にルーツをもつ子どもの高校進学支援は、ボランティア団体など限られている。

事業の詳細

(1) 検討会 全 4 回

- ① 事業説明、情報共有、学習支援教室開催方法、子どもサポーター養成講座の開催等に関する協議
- ② 学習支援教室の実施状況の報告、情報共有、9 月以降の学習支援教室開催方法、子どもサポーター養成講座の開催、進路ガイダンス等に関する協議
- ③ 子どもサポーター養成講座、学習支援教室の実施状況の報告、情報共有、12-2 月学習支援教室開催方法、進路ガイダンス等に関する協議
- ④ 学習支援教室の実施状況、外国にルーツをもつ子どもと先輩の交流会（進路ガイダンス）の報告、事業のまとめ、情報共有

(2) 学習支援教室 全 32 回

学校の教科書やワーク、高校入試の課題などを持参し、ボランティアや大学生に聞き勉強した。受験時期には、面接練習を行った。学習者の希望に合わせるため、主にマンツーマン形式で実施した。

(3) 子どもサポーター養成講座「外国にルーツをもつ子どもの学習支援ボランティア養成講座」 全 2 日間

一日目①外国にルーツをもつ人の話を聞いてみよう 1

～出雲で育った子どもの話とボランティアの話～

② 外国にルーツをもつ人の話をきいてみよう！ 2

～日本と外国の学校の違いって？保護者の視点から～

③ 島根県における外国にルーツをもつ子どもたちの状況

④ 出雲市における外国にルーツをもつ子どもたちの状況

⑤ 日本語指導員に聞く！支援の現状と支援の方法 1

二日目① 外国にルーツをもつ子どものメンタルヘルス

② 日本語指導員に聞く！支援の現状と支援の方法 2

(4) 外国ルーツの子どもと先輩の交流会（キャリアガイダンス）

外国にルーツをもつ先輩の話を聞いて少人数で話すことに焦点を絞り、交流会として実施した。前半で先輩の二人から体験談を聞き、後半は全員で話した。



学習支援教室（会場の様子）



学習支援教室（学習の様子）

事業実施における工夫点・事業の成果等

外国にルーツをもつ子どもの支援に関係する団体である子どもサポートプロジェクト代表、ボランティアグループ代表・外国にルーツをもつ子どもの保護者、日本語指導者、出雲市教育委員会、出雲市文化国際室、島根県教育委員会、島根大学教育学部講師をメンバーとし検討会を開催し、事業内容や実施方法を検討し、情報を交換した

1. 検討会

参加人数

第1回：10人（うち事務局4人）

第2回：9人（うち事務局4人）

第3回：11人（うち事務局5人）

第4回：10人（うち事務局4人）

2. 学習支援教室

参加人数

- ・学習者：11人（延べ114人）
- ・ボランティア：12人（延べ96人）
- ・大学生：5人（延べ19人）

3. 子どもサポーター養成講座

（1）1日目

参加人数：21人

アンケート評価：満足度4.6

（とてもよかった5ーよくなかった1）

（2）2日目

参加人数：23人

アンケート評価：満足度4.3

（とてもよかった5ーよくなかった1）

4. 外国ルーツの子どもと先輩の交流会

参加人数：外国にルーツをもつ子ども3人

外国にルーツをもつ先輩2人、支援関係者3人

アンケート評価：満足度4.7

（とてもよかった5

ーよくなかった1）



子どもサポーター養成講座（オンライン）

今後の課題・（コロナ禍の状況を踏まえた）将来に向けての展望等

学習者の参加人数は、想定した定員まで増えなかった。会場を出雲市内2か所でローテーションしたことにより、片方の会場にしか参加できない子どもがいたため、参加しやすいような会場方法を検討したい。さらに県内の他地域でも教室に参加できるように体制を充実させたい。

保護者への広報を積極的に行うとともに、検討会での意見を参考に、学習の様子を見学する教室参観の日や学校

や勉強のことを相談できる日を設定するなど保護者とのつながりづくりを考えたい。



外国にルーツをもつ子どもと先輩の交流会

事業担当者のふりかえり

- ・連携を図ったボランティアグループの支援により、学習支援教室の学習者が高校に進学でき大変うれしい結果となった。連携を充実させるとともに、当事業でも学習支援教室以外の部分のフォローを考えたい。
- ・学習者の参加が安定せず、ボランティアに負担をかけることが少なくなかった。教室の実施方法は、安定した運営ができるように随時見直していきたい。